

# 鶴見大学紀要

第60号

第2部 外国語・外国文学編

目次

インド洋における「フッガー銅」の発見  
—15、16世紀フッガー家の鉱山業に関する最新報告  
..... 梅 香央里 (1)

A Study of the Genealogy of the American Dream:  
From Horatio Alger and Andrew Carnegie to David Hale  
Fanning of the Royal Worcester Corset Company  
..... 鈴木周太郎 (27)

研究記録..... (49)

鶴 見 大 学

令和5年2月

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY

VOLUME 60

PART 2

STUDIES IN FOREIGN LANGUAGES AND  
LITERATURE

CONTENTS

Kaori Toga: Entdeckung von Kupfer aus Fugger's chen  
Hüttenwerken im Indischen Ozean :  
Die Montanwirtschaft der Fugger im 15. und 16. Jahrhundert.

Shutaro Suzuki: A Study of the Genealogy of the American Dream:  
From Horatio Alger and Andrew Carnegie to David Hale  
Fanning of the Royal Worcester Corset Company

FEBRUARY 2023

# 鶴見大学紀要

第60号

第2部 外国語・外国文学編

鶴 見 大 学

研究記録

(2022年1月～12月)

著書(単著)

鈴木周太郎『比較文化研究ブックレット つけるコルセット つくるコルセット ロイヤル・ウースター・コルセット・カンパニーからみる20世紀転換期アメリカ』神奈川新聞社, 2022年3月

Martin Connolly, *Belfast, with Dinosaurs, 1979 - a Prehysterical Farce*, Shanway Press, 2022年8月

著書(共著)

宮下治政「言語の変化」大津由紀雄・今西典子・池内正幸・水光雅則(監修)、杉崎鉦司・稲田俊一郎・磯部美和(編)『言語研究の世界 生成文法からのアプローチ』研究社, 2022年2月

定期刊行物等に掲載された論文

加川順治「ダンテとベアトリーチェの再会において何が起きているのか? : 『神曲』『煉獄篇』第30・31歌精読」『比較文化研究』第24号, 鶴見大学比較文化研究所, 2022年3月

Miyashita, Harumasa & Hisao Tokizaki, "Borrowing, Stress Shift and Word Order Change in the History of English." *Phonological Externalization* 7, Sapporo University, 2022年6月

塩沢泰子、草薙優加、ドネリー・ユークリア「複数言語使用を認める「英語人形劇ワークショップ」の学び 参加者の声から探る」*IAPL Journal* 4, 国際表現言語学会 (IAPL), [http://performinglanguage.net/?page\\_id=776](http://performinglanguage.net/?page_id=776), 2022年

## 研究ノート

深谷素子「英語多読研究のこれから：多読批判への応答として」『比較文化研究』第24号、鶴見大学比較文化研究所、2022年3月

## 口頭発表

木村利夫、吉田純子，“Disability and Children’s Literature.” Challenged / Challenging Children 表象研究会（第4回）Zoomによる遠隔での発表、2022年7月23日

Ueda, N., Negishi, J., Ano, K., Owada, K., Oya, M., Tsutsui, E., & Asari, Y., “A study of interactional competence of the Japanese learners of English: Analyzing the data from the students who learned English under the old Ministry’s Curriculum Guideline.” The 26th International Conference of PAAL (Pan-Pacific Association of Applied Linguistics) Online, Meiji University, 2022年8月20-21日

深谷素子「フェイクな彼らのリアルはどこに？ 4年生ゼミでの *The Great Gatsby* 精読活動から見えたこと」F. スコット・フィッツジェラルド協会2022年度全国大会シンポジウム「*The Great Gatsby* の『精読』と『解釈』を巡って」2022年9月3日

## 講演

草薙優加、小林めぐみ、深谷素子「多読事始め」神奈川大学言語研究センター講演会、神奈川大学（Zoomによる講演）2022年1月19日

## その他

梅香央里（エッセイ）「フッガー家と歩んで20余年」*Tsurumi Review* 52, 鶴見大学英語英文学会、2022年7月

Shiozawa, Y., Kusanagi, Y., Saito, A., & Donnery, E. (ワークショップ) “Gateways between worlds new and old: Japanese folk tale, *Urashima taro*.” IDIERI 10, University of Warwick, Warwick, the U.K., Hybri

d: adaptable to both in-person and online workshop, 2022 年 7 月 13 日

深谷素子（講義動画作成）「洋書を楽しく深く読む極意：自分で選ぶとこんなに読める」夢ナビ講義 Video (<https://douga.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2022001974?back=>), 株式会社フロムページ, 2022 年 10 月

## 鶴見大学紀要投稿規程

(趣旨)

第1条 この規程は、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部(以下「本学」という。)において研究または教育に従事する者の成果を紀要に公表することについて定めるものである。

(投稿資格者)

第2条 紀要の執筆者となる資格を有する者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本学専任教員
- (2) 本学専任教員との共同執筆者
- (3) 紀要委員会が特に認めた者

(投稿申込者)

第3条 投稿申込者は、前条第1号の者に限る。

(投稿原稿)

第4条 原稿は、未刊行のものに限る。定期刊行物(学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など)や単行本として既刊、あるいはこれらに投稿中の原稿は本紀要に投稿できない。ただし、学会発表抄録や科学研究費などの研究報告書はその限りではない。

(紀要の部編)

第5条 紀要の部編は4種類とし、その邦文および欧文の標題は次のとおりとする。

- 一 鶴見大学紀要 第1部(日本語・日本文学編)  
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 1 (STUDIES IN JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE)
- 二 鶴見大学紀要 第2部(外国語・外国文学編)  
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 2 (STUDIES IN FOREIGN LANGUAGES AND LITERATURE)
- 三 鶴見大学紀要 第3部(保育・歯科衛生編)

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 3 (STUDIES IN INFANT EDUCATION AND DENTAL HYGIENE)

四 鶴見大学紀要 第4部(人文・社会・自然科学編)

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 4 (STUDIES IN HUMANITIES, SOCIAL AND NATURAL SCIENCES)

(発行の回数)

第6条 紀要は、年度内に1回発行することを原則とし、その時期は年度末3月とする。

(提出原稿)

第7条 原稿の作成は、紀要刊行内規で定められた投稿要綱に従うものとする。

(原稿の提出先)

第8条 原稿は、投稿する部編の紀要委員に提出するものとする。

(原稿の提出締切日)

第9条 原稿の提出締切日は、部編により別に定める。

(編集)

第10条 編集は、紀要委員会が行うものとする。

(別刷)

第11条 50部を超える別刷の費用は、著者が負担するものとする。

(著作権)

第12条 紀要の公開にともなう複製権および公衆送信権に関わる著作権の行使は、原則として本学に帰属する。ただし、著者が自分の論文等を利用することは差し支えない。

二 論文等の全部あるいは大部分を他の著作物等に利用する場合には、その旨を本学に申し出ると共に、出典を明記する。また、一部分を利用する場合にも、文献あるいは図説の下に出典を明記する。

三 掲載された論文等の執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされた場合には、著者がその責任を負う。

(公開)

第13条 紀要に掲載された論文等は原則として学内外に公開するものとする。

(事務処理)

第14条 この規程に関する事務は、教育研究支援センター事務部教育研究支援課において処理する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、紀要発行に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この改正規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

執筆者一覧

梅 香央里 文学部専任講師（独文化）  
鈴木 周太郎 文学部准教授（米文化）

鶴見大学紀要  
第2部 外国語・外国文学編

令和5年2月23日 印刷

令和5年2月28日 発行

編集人 鈴木 周太郎  
発行人 中 根 正 賢  
発行 鶴 見 大 学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3  
電話 045 (581) 1001 (代)

印刷 株式会社 東 プ リ  
〒230-8501 東京都大田区蒲田 4-41-11  
電話 03 (3732) 4155